



吉子川

令和6年8月21日(水)
学校だより NO. 25
中島村立吉子川小学校
発行責任者 校長 木戸 美智子

【めざす児童像】

- あかるく たくましい子ども (体)
- やさしく おもいやりのある子ども (徳)
- めあてをもって がんばる子ども (知)

今月のいきいき中島っ子 学びの十か条 (8月)

本を読んで心に栄養
めくるページ広がる想像力

◇ 2学期がスタートしました～始業式校長講話より～ ◇

夏休みが終わり、2学期がスタートしました。大きな荷物を持ちながらも、元気に登校してくる子どもたちを見て、私は嬉しく思いました。きっと家族と共に、楽しい夏休みを過ごしたのでしょう。自分から進んで挨拶する子、笑顔で挨拶する子、張りのある声で挨拶する子のなんと多かったことでしょう。1学期の登校シーンでは、いつも私から質問して会話を広げる機会が多かったのですが、子どもたちから話しかけられたり、質問されたりすることも多かったです。子どもたちの幸福度の高さがうかがえました。式の中では、次のようなアメリカに伝わるたとえ話を紹介しました。



靴を売る会社に、AさんとBさんという2人のセールスマンがいました。この二人が勤めるのは、別々のライバル会社です。あるとき、この2人が、遠く離れた南の島に靴を売りに行くことになりました。長い時間をかけて島に着くと、2人にとって予想外の状況が待ち受けていたのです。何とその島の人は皆、靴を履いていなかったのです。

その様子を見たAさんは、がっかりしながら、会社に報告しました。

「社長、えらいところへ来てしまいました。私たちにとっては、全く用のないところですよ。ここでは靴は売れません。だってみんな裸足なのですから」と。

一方のBさんも、興奮しながら、急いで会社に連絡しました。

「社長、素晴らしいところへ来ました。ここでは誰も靴を履いていません。靴のよさを知らせたら、たくさんのお客さんが靴を買います。急いであったけの靴を送ってください」と。

そして、子どもたちに問いました。AさんとBさんの違いをどう思ったかと。このたとえ話は、みんなに何を考えてほしいのか分かったかと……。同じ状況であっても、Bさんのように前向きに捉えるか、Aさんのように否定的に捉えるかによって、全く違う考えをもち、全く違う行動を起こすことになることになるのです。ピンチを前向きに考え、チャンスに変えたBさんの会社の成長は大きかったものと思います。

思ってもいなかったことが起きたとき、諦めることなく、工夫や努力をもって未来を切り開いていこうとする人たちからは元気をもらい、応援をしていきたいという気持ちにもなります。思うようにいかないな、なかなかできないなと感じたとき、もうだめだと立ち止まってしまうのか、それとも、周りの助けをかりながら乗り越えていこうとするのか、それは自分の心次第だと思えます。前向きに、自分から進んで取り組む子、チャレンジを楽しめる子になってほしいです。

乗り越えていこうと頑張った先には、自信がついた自分、成長した自分が待っています。2学期の学習や行事に、前向きに、自分から進んで、取り組んでいきましょう。

